

# 斐伊川河口周辺の淡水系シジミ生息実態調査

(宍道湖・中海水産資源維持再生事業)

若林英人・松本明夫<sup>1</sup>

## 1. 研究目的

宍道湖にはヤマトシジミ以外に淡水系のシジミが斐伊川河口部を中心に少数分布しており、水産技術センターでは平成15年から宍道湖漁協平田シジミ組合青年部と共同で宍道湖内の淡水系シジミの分布調査を実施している。今年度は平成26年9月17日に調査を実施したので、その概要について報告する。

## 2. 研究方法

斐伊川河口～平田沖の図1に示す22地点において、漁業者15名が目合11mmのジョレンを用い、約10分間のシジミ操業（機械びき）を行い、シジミを採取した。また、ジョレンから抜ける小型個体の状況を把握するため船川河口、境川河口の代表2地点においてはジョレンをなるべく振るわない泥ごとのサンプルも採取した。採取したシジミを調査点ごとにヤマトシジミと淡水系シジミに選別し、重量、個数を計測した。船川河口と境川河口の代表2地点については殻長の計測も行った。

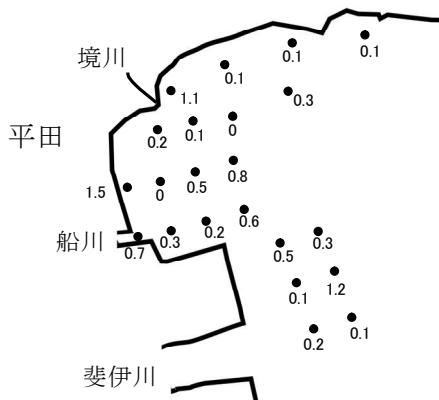


図1 調査地点と淡水系シジミの混獲率 (%)

図中の数値は淡水系シジミの混獲率を示す

## 3. 研究結果

各調査点における淡水シジミの混獲率（淡

水系シジミ個数 / (淡水系シジミ個数 + ヤマトシジミ個数) × 100) を図2に示す。また、調査地点を斐伊川河口、船川河口、境川河口の3つの水域に分け、各水域の淡水系シジミの混獲率（それぞれの水域の平均値）の推移を図2に示した。平成26年度は各調査点の淡水系シジミの混獲割合は低く、水域別の混獲率も昨年度に引き続き減少した。また、淡水系シジミは殻長12～14mmの大きさの貝が主体となっていた（図3）。

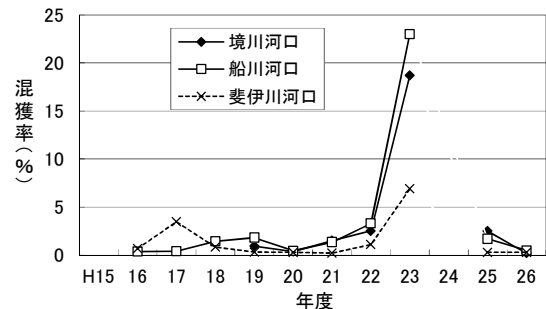


図2 淡水系シジミの混獲率の推移

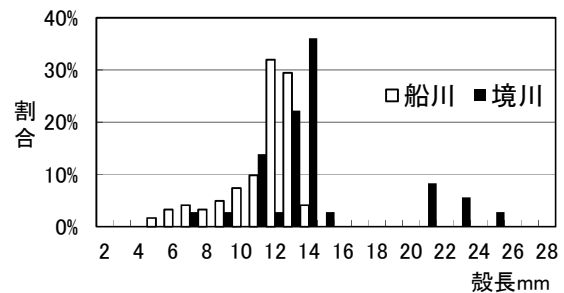


図3 淡水系シジミの殻長組成

### ●考察

平成24年度以降は塩分濃度が高くなり、淡水系シジミが生育しにくい環境であったと考えられる。

## 4. 研究成果

調査で得られた結果は、宍道湖漁業協同組合役員会で報告された。

<sup>1</sup> 宍道湖漁業協同組合平田シジミ組合青年部